

## 『感謝の気持ち』

私の家は中学生の弟と母の3人家族で、母子家庭である。母は週6日でパート勤務をしているが、やはりそれだけでは3人分の食費や家賃を払うのは困難である。

私が高校1年生の時、弟は動けなくなり救急車で運ばれ、隣町の病院で入院することになった。しかし1ヶ月入院しても治る気配はなく、大きい病院で手術をすることになった。手術費は高く、私の家にはとても払える金額ではなかったが、高額医療によって町からお金がでた。今回弟は車に乗って移動する事が出来なかったため救急車で搬送されたが、その費用も税金で賄われているため無料で本当に助かった。

私はこれまで税金を払うことに不満があった。政治家が税金を無駄遣いしていたり、自分の買い物や旅行に使ったりしているとニュースなどで聞いたことがあったし、税金を払ったら一体どこへ行き、何に使われているのか知らなかったからである。しかし今回、弟の病気の際に大変助けられた事をきっかけに税金に感謝の気持ちを持つようになった。

私は今、将来の夢に向かって毎日一生懸命勉強している。弟の病気の時、税への感謝の気持ちと同時に現場で対応してくれた看護師の方々にも感謝の気持ちと憧れを抱いた私は、将来看護師になると決心した。しかしそんな私に重くのしかかったのが看護学校の学費である。これ以上母に迷惑と負担をかけられないが、どうしても看護師になりたいという葛藤の中で私は進路を決めきれないでいた。しかしここでもまた学費の一部を町が負担してくれるという制度を知り、私は覚悟を決めて勉強に打ち込む事ができた。もちろんその制度の財源が税金であることは言うまでもない。大げさかもしれないが私は税に弟の命を助けてもらい、自分の進路を後押ししてもらった。

私たち国民は知らないところで、税金に助けられている。私は社会にでたら嫌々払うのではなく、感謝の気持ちを持ちながら納税したい。そして私たち家族が税に助けられたように、ほかの人にも税金があることの大切さやありがたさを知って欲しいと強く思った。